

平成 28 年度 第 2 回 児童福祉部会 会議録（送付用）

- I 会議名 平成 28 年度 第 2 回 児童福祉部会
- II 日 時 平成 28 年 6 月 29 日（水）14：00～16：00
- III 会 場 横浜市健康福祉総合センター 8 階 大会議室 8AB
- IV 出席者 部会員 26 名（他行政関係者 5 名事務局 3 名）
- V 議 題 以下のとおり

●はじめに平成 28 年 5 月 1 日開所した「自立援助ホーム NEXT」の関代表をご紹介します。

1 情報提供

- ① NPO 法人 ブリッジフォースマイルより平成 28 年度の事業案内について【別紙】  
→標記事業者より別紙資料に基づき、事業について説明を行った。
- ② （株）ウィンズより空家の情報提供について【別紙】  
→標記事業者より別紙資料に基づき、情報提供を行った。

2 横浜市社協からの連絡事項

- ① 第 11 回ファミリーホーム全国研究大会への職員協力について【資料 1】  
→事務局より【資料 1】に基づき報告を行った後、齋藤ホームの齋藤代表より説明を行った。
- ② 第 59 回大都市社会福祉施設協議会の報告について【資料 2】  
→事務局より【資料 2】に基づき報告を行った後、伊達部会長より報告を行った。
- ③ 人材確保動画のインターネット掲載及び養成校宛ポスター送付について【資料 3】  
→事務局より【資料 3】に基づき報告を行った。
- ④ 第 2 回よこはま地域福祉フォーラムについて【資料 4・別紙】  
→事務局より【資料 4】に基づき説明を行った。また、別紙報告書を配布した。
- ⑤ 寄付について【資料 5-①②】  
→事務局より【資料 5】に基づき説明を行った。

3 横浜市からの連絡事項

- ① 「横浜市の家庭的養護推進の基本的な方針」の策定  
→横浜市より別紙資料に基づき説明を行った。

平成 27 年度から平成 41 年度までの 15 年間で施設の小規模化と家庭的養護の推進を行う。具体的に現状の割合、施設 9/10：FH 里親 1/10 から、施設 1/3：グループホーム 1/3：FH 里親 1/3 を目指す。大規模施設の定員については現状維持とする。

- ② 平成 28 年度自立支援強化事業について  
→横浜市より別紙資料に基づき説明を行った。

【質疑等】

部会長

この事業はどこかをモデルにした事業か。

横浜市

昨年度アフターケア検討会の内容を盛込んだものでどこかをモデルにしたものではない。

部会員

CO の「資格要件に勤務ローテーションに入っていない者」とあるが、勤務してる職員をローテーションからはずす余裕はないし、この事業内容ができる職員をこの金額で 9 月までに採用することは現実的でないだろう。少なくとも 7 月 15 日までに報告するのは難しい。

横浜市

7 月 15 日までに報告していただきたいのは施設の窓口になっていただく施設の職員であって、資格要件については、要件をみたく職員がいれば加算がつくという内容。

部会員

FSW をシフトからはずす方向で進んでいるが、CO と兼務できるか。年間 240 万円だと 1 人も雇えない。

部会員

施設では窓口に出す職員もいない状況。ローテーションに入らない職員でなく兼務する職員でないと出せない。検討し直してもらいたい。

部会員

FSW は現在 1 名ついているが、今年度もう 1 人つく予定。CO と合わせると 2.5 つく計算になる。FSW と兼務することでうまく調整つけられないか。

部会員

アフターケアが重要なのはわかるが、まずはインケアが大事。人手がない状況で、職員をローテーションからはずせない。ゆるやかなかたちで始めてほしい。

横浜市

アフターケア検討会でのご意見を事業内容に反映させた。事業内容が多くなったため、ローテーションに入りながら事業を実施するのは難しいと考えた。

部会員

事業内容を見ると兼務だと難しい業務内容。この内容を専従、年間 240 万円でやる職員はいない。内容にお金が見合っていない。

部会員

FH でもアフターケアの対応に困っているのに、家庭的養育という分けて支援から外れてしまう。FH も 7 施設で 1 施設分の児童がいる。

部会員

アフターケアをやる場合、ケアをしている職員でないと関わりを持つのが難しい。専任は難しい。ローテーションからはずすのはやめて欲しい。

部会長

FSW と兼務という形で考えていくことはできないか。アフターケアの問題は施設だけで解決するのは難しい。FH もホームを超えてつながらないと対応できない。FH 7 ホーム集めて 1 人つけることも検討すべきではないか。ただ、せっかくついた予算がなくなってしまうのは避けたい。部会としては全体として足並みを揃えていきたい。

横浜市

再度検討してご提案したい。

③ 里親制度説明会について

→横浜市より別紙資料に基づき説明を行った。

④ 食物アレルギー対応研修の開催について

→横浜市より別紙資料に基づき説明を行った。

4 児童福祉法改正について

→横浜市より別紙資料を基に説明を行った。

【質疑等】

部会員

児相の機能は強化する予定か。

横浜市

4 万人に 1 人福祉士を配置する基準になれば、横浜市の職員も大分増員する予定。

部会員

措置延長中に措置変更も可能になるのか。

横浜市

詳細がまだ出ていない。情報があれば次回会議の場でご報告したい。

部会員

乳児院からくる子の中には児童養護施設で 18 歳まで過ごす予想がたつ子がいる。「里親の方がいいのではないか」と児相に聞いても「親に聞いていないのでわからない」と言う。

中央児相

里親委託推進委員会も数年重ねており、最優先で里親委託を検討している。里親委託が増えない理由としては、まず里親の数が足りないこと、また多様な行動様式を持ったお子さんも多いことも原因。年齢の低い段階、新生児での里親委託も検討している。

次回開催予定

日時：平成 28 年 8 月 31 日（水）

場所：健康福祉総合センター 8 階 大会議室 8AB

※FH・自立援助ホーム分科会は同日午前中開催予定（小会議室 904）

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会  
社会福祉部施設福祉課児童福祉部会